



報恩講 de お寺にお参りを してみませんか？

浄土真宗で一年のうち最も大切な法要が報恩講です。「報恩」とは「ご恩に報いる」という意味です。宗祖親鸞聖人がお念仏の教えを私たちに伝えてくださったご恩を喜び、その教えをあらためて聞かせていただく法要として報恩講をお勤めします。報恩講では、お勤めや法話を通して教えに触れ、自分の人生を見つめるひとときをいただきます。「お寺の法要は難しそう」などと思わず、どうぞお気軽にお参りください。初めての方も大歓迎です。静かに手を合わせ、お念仏の声に耳を傾け、ゆったりとした時間を過ごしてみませんか。沖縄県内には浄土真宗本願寺派のお寺がいくつもあり、それぞれで日程で報恩講をします。ぜひお近くのお寺にお参りいただき、親鸞聖人の教えに出遇う良いときをお過ごしください。皆さまのお参りを心よりお待ちしております。



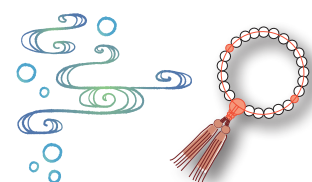
浄土真宗本願寺派
発行 本願寺沖縄別院 (浦添本願寺)
発行人 久留島智祐
〒901-2132
沖縄県浦添市伊祖5-10-1
電話 (098) 877-3276
ファックス (098) 877-4242
mail ameku2182@yahoo.co.jp

沖縄別院の報恩講

沖縄別院 (浦添本願寺) 本堂	沖縄別院 久米島布教所 本堂
2027(令和9)年1月24日(日)午前10時	2026(令和8)年11月15日(日)午前10時
講師 松崎智海師(北豊教区小倉組永明寺住職)	講師 別院職員
〒901-2132 浦添市伊祖5-10-1 TEL (098) 877-3276	〒901-3124 島尻郡久米島町仲泊1068-3 TEL (098) 985-2271

浄土真宗本願寺派 各寺院の報恩講

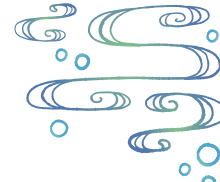
平成寺 本堂	真常寺 本堂
2026(令和8)年11月15日(日)午前10時半	2026(令和8)年11月29日(日)午前10時
〒901-0311 糸満市字武富603-12 TEL (098) 992-0696	〒904-0313 中頭郡読谷村字大湾464 TEL (098) 956-2182
誓願寺 本堂	法谷寺 本堂
2026(令和8)年11月22日(日)午前10時	2027(令和9)年2月13日(土)午後6時
〒907-0022 石垣市字大川821 TEL (0980) 83-2279	〒904-0202 中頭郡嘉手納町字屋良747-1 TEL (098) 956-0820



どうぞご家族そろってご参拝ください。

皆さまとともにご縁をよろこび合い
仏さまのご恩に感謝の一日を過ごしましょう。

※報恩講の詳細については、各寺院にお問い合わせください。



「慰霊の日」全戦没者追悼法要

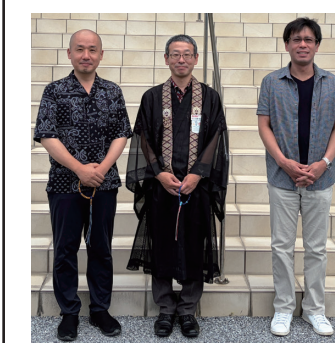
6月23日(火)は沖縄県の「慰霊の日」です。各地で「慰霊の日」全戦没者追悼法要をお勤めしました。今年には戦後81年を迎えます。沖縄別院では午前10時から本堂で映画『ふじ学徒隊』を上映し、午前11時から法要「読経作法(阿弥陀経)」を修行しました。別院・久米島布教所では正午、参拝者と共に非戦平和の思いを胸に「平和の鐘」をつきました。別院では平和の鐘の後、糸満市摩文仁の平和祈念公園で行われている追悼式のテレビ中継を放映しました。布教所では平和の鐘の後、法要をし、その後、映画『ドキュメンタリー 沖縄戦』の上映会を行いました。



また、同日午後には、浦添市仲西自治会、同屋富祖自治会、同安波茶自治会の追悼法要へ出向し、各慰霊碑前で



れます。この思いを次世代に伝えていかなければなりません。勤めさせていたいただきました。どの会場も、強い日差しにもかかわらず多くの方が参拝されていきました。そして「追悼法要を継続し、次世代に戦争の悲惨さを伝えていかなければならない」などの声が聞かれました。「慰霊の日」全戦没者追悼法要を通して、改めて命の尊さ、非戦平和の大切さを実感させられました。



↑大阪教区河中南組
恵光寺の皆さん

熊本教区山鹿組の皆さん→



ハイサイ!!
沖縄へようこそ
6月24日(水)熊本教区山鹿組の皆さんが、7月31日(金)大阪教区河中南組恵光寺の皆さんが沖縄別院に参拝されました。沖縄別院では、今後も皆さんのご参拝をお待ちしております。

令和8年熊本地震 災害義援金

【募金の名称】

浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金
「令和8年熊本地震 災害義援金」

【受付口座番号】

●郵便振替
01000-4-69957
加入者名 たすけあい募金

●銀行振込
銀行 ゆうちょ銀行
店名 一〇九(イチゼロキュウ)店
番号 当座 0069957
名義 たすけあい募金

※通信欄に「熊本地震」と明記し、
住所、連絡先、領収書名のご記入を
お願いします。



沖縄別院の孟蘭盆会

苦しみの
世界に落
ちた者の
ことです。
目連尊
者はあの
優しくっ
た母親が
餓鬼の世

「孟蘭盆経」に限らず全てのお経
は、亡くなった方のために勤めら
れるものではなく、生きている私
たちが聞きいただいでいかなけれ
ばならないものです。
沖縄別院でも皆さんにお参りい
ただき、お経を一緒にお勤めいた
しました。

本山では7月29日、令和8年熊
本地震緊急災害対策本部(中央本
部)が設置され、園城義孝総長が
本部長に就任した。また、同日付
けで熊本教区現地緊急災害対策本
部(現地本部)の本部長に大辻子
順紀・同教区教務所長が任命された。
同日夕には、復旧支援隊初動対

本山に災害対策本部設置

から大きくズレたり、柱が傾いて
いるところが少なくない」とつら
そうに語った。

応員として宗務所職員2人が被災
地の熊本教区に向けて出発。支援
隊は福岡教区教務所で飲料水、ド
ライシート(汗ふき用)、見舞いた
オルなどの支援物資を車2台に積
み込み、30日午前中に現地本部が
設置された熊本教区教務所に向か
う。この後、大辻子教務所長らと
ともに被災寺院をお見舞いし、支
援物資を届ける予定。また、31日
には鹿児島教区の職員2人も合流
し、被災寺院をお見舞いし、支援
物資を届ける。

孟蘭盆会

8月11日(火) 午前10時から沖
縄別院にて孟蘭盆会を修行しまし
た。

孟蘭盆会とは『孟蘭盆経』とい
うお経が由来とされています。

あるとき、お釈迦さまの弟子、
目連尊者が自身の幼いころに亡く
なった母親を神通力で探すと、母
親は餓鬼の世界におちて苦しんで
いました。餓鬼とは、この世で
食った報いとして、飢えや渇きの

令和8年熊本地震

本号2頁、3頁上2段は「本願寺
新報」の許可を得て、同紙8月10
日号の記事を転載しています。



熊本教区をはじめとして多く
の教区で寺院や門信徒が被害
を受けている。

本山・社会部〈災害対策〉
は、地震発生直後から震源地
の熊本教区などに被災状況の
報告を依頼しているが、被害
の全容はまだ把握できていな
い。その中、震度6強の激震
に見舞われた熊本県八代市植
柳下町にある勝明寺・木下明
水住職(54)が7月29日、電
話取材に応じてくれた(写真〓木
下住職提供)。

7月28日午後4時27分ごろ、熊
本県熊本地方を震源とする地震
(令和8年熊本地震)が発生。宇城
市と氷川町で最大震度7を観測し、
甚大な被害を各地にもたらしてい
る。宗門内でも、詳細は調査中だが、

同寺では山門と鐘楼が倒壊。ま
た本堂も柱が傾き、内陣の宮殿が
倒壊、仏具が床上に散乱した。庫
裏ではタンス、食器棚、本棚など

ほとんどの家具類が倒れ、割れた
食器類などが床に散乱し、靴を履
かないと内部には入れない状態と
なっている。

木下住職は京都で開かれていた
安居からの帰り、新幹線の車中で、
友人から連絡を受け地震の発生を
知った。「境内に設置する防犯カメ
ラの映像をスマホで確認すると山
門、鐘楼が倒れ、本堂内部も宮殿
が倒れて、外陣へ崩れ出しそうに
なっていた」。がく然とした。

九州新幹線は運行を停止してい
たため、「小倉」駅で下車し、北
九州市内の親類の寺院で車を借り、
自坊に戻ったという。

夜に帰宅し、「すぐに倒れている
宮殿からご本尊を救出した」。

地震発生時には、前住職夫妻
と裕子坊守、そして小学生と保育
園児の子ども3人の6人がいたが、
全員無事だった。瑞子前坊守(83)

は「激しい横揺れと縦揺れがかな
り長い時間続き、立っていられな
い状態だった」とその瞬間を語る。
この地域は電気と水道は通ってい
る。

木下住職は「お寺を心配してこ
られた近所の門徒さんが『自宅の
外観は大丈夫だが、内部は家具が
倒れるなどしてひどい状態』とおっ
しゃっていた。ご自身が大変なの
に、お寺のことを心配してくださ
ることがありがたい」と話す。余
震が続いているので、門徒全員の
確認にはまだ時間がかかるという。

勝明寺が所属する八代組(八代
市内の21カ寺)の住職らと情報共
有しているSNS(グループライ
ン)には、各寺院の被害の状況の
やり取りが掲載されている。木下
住職は「写真で確認するだけだが、
本堂と鐘楼が全壊している寺院や、
本堂、庫裏など境内の建物が土台

界で苦しんでいる姿に驚き、お釈
迦さまに相談しました。

お釈迦さまは、「あなたの母親は
家族を想うあまり周りが見えなく
なり、他人にはよくない行いをし
ました。そのため、いま餓鬼になっ
て苦しんでいるのです」と言われ
ました。また、「母親を助けるには、
山や森で修行していた僧侶が町へ
降りてきたら、その人たちにおい
しい食事を用意しなさい」と目連
尊者に勧めました。目連尊者が僧
侶たちに食事を施すと、母親は餓
鬼の世界から救われたそうです。